



創立昭和46年
(Founded 1971)

CAJ

Communication Association of Japan Newsletter

日本コミュニケーション学会ニュースレター

NEWS

CONTENTS

108 2015.2

1. 巻頭言 副会長挨拶 4	7. 支部ニュース14
2. 2014年度 第1回理事会報告 2	支部ニュース：北海道支部14
3. 第45回年次大会会場校案内 5	支部ニュース：東北支部14
4. 学術局報告 6	支部ニュース：中部支部15
学術局セッション報告 6	支部ニュース：関西支部16
第45回年次大会発表論文募集 7	支部ニュース：中国・四国支部17
学会応募に関するお知らせ 9	支部ニュース：九州支部18
5. 事務局報告10	8. メールアドレス登録のお知らせ20
6. 広報局便り12	9. 編集後記20

日本コミュニケーション学会事務局

〒814-8511 福岡市早良区西新 6-2-92 西南学院大学文学部外国語学科英語専攻 清宮研究室内

TEL.092-823-4541(直) FAX.092-823-2506(共有) e-mail: cajoffice@caj1971.com URL: http://www.caj1971.com

日本学術会議協力
学術研究団体

巻頭言

副会長挨拶：コミュニケーション研究のハブとして

CAJ 副会長（総務担当） 青沼 智（津田塾大学）



この度、副会長（総務担当）の任を仰せつかりました。甚だ非力の不肖者であります。五島会長はじめ理事会のみなさんそして会員の諸先生方と CAJ を盛り上げるべく、精一杯頑張る所存であります。何卒よろしく願いいたします。

さて、お知らせの通り、2015 年度の年次大会は 6 月 13 日・14 日に南山大学（愛知県名古屋）で開催されます。本号がみなさまのお手元に届く頃には、もう既に研究発表の応募（締め切り 2 月 20 日）をお済ませになっていらっしゃる方も少なからずいらっしゃる事とお察しいたします。今年の大会テーマは「コミュニケーションとジャーナリズム」ですが、通常の研究発表セッションのみならず、学術講演・シンポジウム等の企画セッションについても、守崎副会長（学術担当）また吉武理事をはじめとする学術局の先生方を中心に準備が進んでおります。

学会誌（『日本コミュニケーション研究（*Japanese Journal of Communication Studies*）』）同様、年次大会は開かれた場であり、CAJ 会員間のコミュニケーションのためだけではなく、私たちの生業（研究・教育活動）の成果を学会・学界外部に還元し、かつその凄みをアピールすることができる貴重な機会かと存じます。

CAJ は、日本学術会議協力団体の中で、その名称に「コミュニケーション」という語を冠した数少ない団体の一つであることはご周知の通りです。少々大袈裟、あるいは「自意識過剰」かもしれませんが、日本において・日本に関するコミュニケーション研究に従事するすべての方々の居場所の一つが CAJ である、という見方も出来るのではないのでしょうか。会員のみなさまはいわずもがな、コミュニケーションとジャーナリズム、またそのどちらか一方にだけでもご興味がお有りの非会員のご同僚とも年次大会についての情報をご共有いただき、出来る限り多くのかつ多種多様な方々にご参加いただければ嬉しい限りです。

今回、この拙文をしたためるにあたり、ニューズレター前号・前々号に掲載された宮原前会長・五島現会長の巻頭言を読み返させていただきましたが、そこでお二人が共通して言及されていることの一つに、コミュニケーションという語が一体何を指しているのか、さらにはそれが巷でどう理解・認知されているかという問題があります。例えば、Jurgen Habermas や Dell Hymes によって 1970 年代に提唱され、それ以来私たちにとってなじみ深い術語の一つである「コミュニケーション・コンピテンス（communication competence; communicative competence）」が、某大手英語学校の広告では「COCO」というポップなネーミングを纏わされ、「ニューヨークの朝食屋で好みの焼き加減の目玉焼きを食しつつ、隣に座ったアメリカ人男性と日本人大リーガーの奥さんの容姿について英語でおしゃべりする」などと解されているようです。

私自身、コミュニケーション研究という学術分野にはじめて触れたのは約 25 年前です。その頃と比較すると、確かに、コミュニケーションということばは社会の様々な場所において市民権を獲得しつつあります。そのような状況の下、コミュニケーションという「日常語」を定義し使用する「特権」が私たちコミュニケーション研究者のみに与えられているという考え方は成り立たないでしょう。その反面、日本に関する・日本におけるコミュニケーション研究を代表する団体として、CAJ の学術に対する日本の学術界や巷からの期待そして担うべき責任は決して小さくないのではないかと思います。

無論、CAJ の学術と申し上げても、その実体は各会員の研究の集大成以外の何物でもありません。年次大会や学会誌のみならず、各支部また研究会等、みなさまの研究・教育活動の「ハブ」として、CAJ をますます有効活用していただければ嬉しい限りです。

2014年度第1回理事会報告

2014年12月13日(土)午後1時より、日本コミュニケーション学会の2014年度第1回の理事会が開催された。会場は、守崎副会長のお世話により、JR 東京駅に隣接する「東京駅前サピアタワー」にある「関西大学東京センター」を利用させていただいた。

I. 会長挨拶

新しい体制になって初めての理事会として、五島会長から挨拶があった。新しいメンバーも多く、今後のCAJの発展のために、理事の協力をお願いした。そのうち、各局の理事と支部長の自己紹介を行った。

II. 報告事項

【1】第44回年次大会報告

2014年6月21日(土)～22日(日)、琉球大学にて、第44回CAJ年次大会が兼本大会実行委員長のもと開催された。約90名の参加者が、大会テーマである「コミュニケーションと平和」を含め、活発な議論と情報交換が行われた。またラミス先生の基調講演「コミュニケーション論による憲法の分析」に加え、語り部による戦跡巡りなど、新しい企画とともに多くの学ぶ機会を持つことができた。

【2】各局および担当理事報告

1. 事務局 (清宮・高井・鳥越・森口)

(1) 入退会者および会費納入報告

高井理事より、会員の状況について以下の通り報告があった。

- ・会員総数：一般会員 431名、学生会員 6名。(2014年12月20日現在)
- ・各支部会員数：北海道＝正会員28名。東北＝正会員22名。関東＝正会員177名、学生会員2名。中部＝正会員44名。関西＝正会員78名。中国・四国＝正会員24名。九州＝正会員51名、学生会員4名。海外＝正会員7名。
- ・退会希望者10名、入会希望者12名 (2014年6月19日～2014年12月13日)

(2) 第44回年次大会収支報告

鳥越理事より、44回年次大会についての会計報告があった(概要は事務局報告を参照)。参加費以外の収入として、沖縄コンベンションビューローから助成金をいただくことができた。支出では、人件費が予算を上回っているが、これは多くの学生スタッフに手伝ってもらったためであり、開催校である琉球大学にたいへんお世話になった。その他の支出としては、戦跡をめぐるツアーのバス代が例年と異なる。

2. 学術局 (吉武・坂井・野中・森泉)

(1) ジャーナル関連

坂井理事より、学会誌の発行について報告があった。『日本コミュニケーション研究』第43巻第1号が発行され、12月10日に発送を完了した。第43巻第2号は、2015年5月31日発行を予定し、7月31日に投稿を締め切った結果、11本を受理し、掲載可能が2本、掲載不可が9本であった。そのうち再査読論文を11月13日までに3本受理した。特別企画として、ダグラス・ラミス氏の基調講演論文「コミュニケーション論から見た日本国憲法と自民党の「日本国憲法改正案」」を掲載する予定である。第44巻1号の投稿締め切りは2015年1月31日を予定している。

(2) 学会賞関連

吉武理事より学会賞に関して報告があった。「論文の部」は2本が該当し、「書籍の部」は1冊のみの応募があった。3月上旬締め切りで、引き続き募集中である。

(3) 年次大会関連

森泉理事より、45 回年次大会に関して、これまでの決定事項について報告があった。例年通り、発表およびパネル等を募集する。同様に、学術講演と一般公開公演を予定している。応募要領については、ニューズレターにも掲載しているが、これに加えて学会ホームページにも掲載する。

3. 広報局 (高永・小山)

(1) ニューズレターの発行

小山理事よりニューズレターについて報告があった。完全電子化の第 1 号となるニューズレター 107 号を発行した。次号(108 号)は、2 月初旬に発行の予定。

(2) ホームページ関連

高永理事より、ホームページに関係した案件について報告があった。Web 版のニューズレターを学会ホームページに掲載した。情報の性質上、議事録における個人情報に抵触するもの以外を掲載した。また同様の理由で、会計報告は、学会誌とともに会員へ発送した。

4. 各支部報告

各支部長がそれぞれ報告を行った。(内容は支部ニュースを参照)

5. その他

宮原理事(海外渉外担当)から、国際コミュニケーション学会(ICA)の開催について報告があった。2016 年 6 月 9 日から 13 日まで、福岡で ICA が開催される予定である。同時期に、CAJ 年次大会を西南学院大学で開催したい。ただし、ICA と参加費が異なるなどの諸事情をかんがみて、共同開催にはしない予定である。もう少し進んだ段階で学術局と相談していく。

III. 審議事項

【1】第 45 回年次大会関係

日程と会場について、2015 年 6 月 13 日(土)~14 日(日)に、南山大学での開催することを予定している。実行委員長は森泉先生とする。会場校の事情で、教室の予約まだ正式確定ではないが、確定次第あらためてホームページでアナウンスする。テーマは、「コミュニケーションとジャーナリズム」とする。広くコミュニケーション学を広める目的のため、会員以外の方が来られる公開講演会を、初日または最終日のいずれかに開催し、これについてのみ入場は無料としたい。これらの企画については学術局に一任する。また大会への参加登録から参加費の入金、当日受付の会計業務などについて、44 回大会と同様に、トップツアーの御担当者をお願いする。ホームページからの登録開始は、5 月連休明けくらいになる。これらの事項について、すべてが承認された。

【2】各局および担当理事

1. 事務局

(1) 支部活動助成金の遡っての支払いについて審議した。九州支部では、支部大会助成金を申請していたが、支部助成金を申請し忘れていた。これについて、遡って支給が要請され、審議のうえこれを承認した。また次の点が情報共有された。支部助成金についての申請書式は特になく、助成の申請方法などは、支部長交代の際にしっかりと引き継ぎをしてもらう。助成金申請のために活動報告・活動計画・決算報告・予算を送るが、それらの書類は支部大会で承認してもらう必要がある。支部大会による承認が本部の年度とずれているため処理しにくい。今後、支部の年度を全国に合わせてもらう方向で努力いただく。助成金の申請方法の問題と、年度の問題の二つは支部に持ち帰り、6 月の理事会までに検討してもらうこととする。

(2) 新会員の入会連絡について、追加議論した。現在のシステムでは、新会員の支部への連絡が遅いという指摘があった。現在も随時入会申し込みが可能であるが、よりスムーズな手続きのため、新入会員本人が振り込み手続き完了の連絡を、会計担当理事に直接メールするようお願いすることとする。入会手続きの流れについては、以下の「事

務局報告」にて紹介している。

2. 広報局

学会ロゴマークの使用規定について、審議を行った。これまで学会のロゴマークについて明確な規定がなかった。現在使用しているロゴのオリジナル原本が見つかったため、これを機会に改めてロゴの使用規定を含めた学会のロゴ全般について議論した。継続審議とし、次の3月の理事会で提案し、6月の総会で決定する。

3. その他

CAJ の歴史を記録するプロジェクトについて議論した。日本におけるコミュニケーション研究第1世代の先生方にインタビューし、CAJ 成立時期の記録を残すことで、日本におけるコミュニケーション学発展の歴史を記録していく。理事会以外のメンバーを含めてプロジェクト化していくのが良い。具体的には、丸山理事(企画担当)を中心にプランを提案してもらおう。また、学会誌のバックナンバーが学会の歴史を語るなので、それを電子化しておく。

【3】次回理事会開催日時・会場

2015年3月28日(土)13時より、関西大学東京センター(東京駅前サピアタワー)にて開催予定。

第45回年次大会会場校案内

第45回年次大会は2015年6月13日(土)・14日(日)に南山大学名古屋キャンパス(愛知県名古屋市昭和区)で開催することを予定しております。CAJの年次大会を久しぶりに名古屋で開催できることを大変嬉しく思っております。

今回の年次大会のテーマは「コミュニケーションとジャーナリズム」です。学術講演の他にも大会テーマに関連した公開講演を実施し、コミュニケーションとジャーナリズムの問題を多角的な視点から探っていきたいと考えております。CAJ理事および大会実行委員会一同、大会が盛り上がるように全力を注いでいく所存ではありますが、何といたっても大会の主役は参加していただく会員の方です。昨年度の大会同様、個人研究発表と企画セッションの両方の申し込みを受け付けておりますので、奮ってご応募いただけるようお願いいたします。また、発表の有無にかかわらず、出来るだけ多くの方にご来場いただき、年次大会を研究交流の場として活用していただければ幸いです。



南山大学正門



学会会場予定施設(南山大学B棟)

会場：南山大学名古屋キャンパス(〒466-8673 愛知県名古屋市昭和区山里町18)

交通アクセス：大学ウェブページ(<http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/access.html>)をご覧ください。

参加申込方法と宿泊について：本大会でも前回同様、「トップツアー」を通じたWeb上での学会参加申込となります。準備が整い次第、学会特別プランとしていくつかのホテルも一緒にご紹介いたします。申込は、大会案内とともに送られる申込方法に従ってお手続きのほどお願いいたします。

(学術局・森泉 哲)

学術局報告

学術局セッション報告

東北支部研究大会

2014年11月8日(土)、仙台市にある仙台青葉カルチャーセンターで開催された第15回東北支部研究大会に、学術局から吉武が参加した。

前半は、5つの研究発表が行われた。今年は単独発表となった石橋嘉一氏は、オンライン英会話システムを活用した自律英語学習支援について、特にこれまでのコミュニケーション教育研究会で得られた知見と結びつけた、実践的かつ理論的に価値のある発表をされた。新会員となられた小笠原メリッサ氏の発表は、日本のチャイルドシート着用促進のメディアを他国のものと比較分析し、日本の「手ぬるさ」を鋭く指摘するものであった。実際の映像は実に説得力があった。昨年に引き続き発表された小島正美氏・宮曾根美香氏、川内規会氏、五十嵐紀子氏・関久美子氏はそれぞれ「学生のSNS利用の実態調査」、「日本の医療通訳養成」、「介護福祉教育学との異分野間コミュニケーション」について、これまでの研究に絡めつつもさらなる展開を見せる研究発表をされた。聞いていてどれも知的探究心を刺激する発表であり、質疑応答でも活発な議論が交わされた。

研究発表に続き、前会長の宮原哲氏による「国内の異文化から学べること—CAJ会長として支部大会を巡って得たもの—」と題された講話がなされた。「支部のあり方は多様でよい。ただ自分と相手はどう違うのかは知っておくといい」という指摘は、毎年出来る限りすべての支部大会を回ってこられた宮原前会長だからこそ出てくる、重みのある指摘であった。学術局としても、支部のアイデンティティを保ちつつも垣根を下げ、互いに往来しながら刺激し合える、「支部のEU化」を模索したい。

最後に、恒例となりつつある「コミュニケーション教育研究会・学術局によるラウンドテーブル」が行われた。今年は特定の発表者はたてず、オープンな議論がなされた。全国大会と東北支部研究大会それぞれ3回ずつ、交互に行ってきた一連のパネルも、一度は蓄積された議論をまとめる時期にある。今回、半ば思いつきではあったが吉武の方より、コミュニケーション教育の過程と側面をモデル化したものを提案した。詳細については、近々ジャーナルに特別企画として公表できればと思っている。

東北支部研究大会も3年連続の参加となった。いつも東北支部のアットホームさには心が和む。まさに「癒しの旅」であったが、今回もう一つの思いがあった。東日本大震災より3年8ヶ月を経過してはいるが、自分の足で被災地を歩き、自分の目で見、肌で感じたい、という思いを。時間の関係上、石巻市に足を運ぶことにした(簡単なレポートを「福岡教育大学被災者支援サークルあくしゅ」のブログに公開しているので機会があればごらんください)。最後は個人的な話となって恐縮だが、今年の東北支部研究大会は癒されつつ、同時に、心が引き締まった特別な大会となった。(吉武)

第45回年次大会 発表論文・企画セッション募集

日本コミュニケーション学会は、2015年6月13日(土)、14日(日)に、南山大学(愛知県名古屋市)で第45回年次大会の開催を予定しています。本年度の大会テーマは「コミュニケーションとジャーナリズム」です。このテーマのもと、多数の企画を準備すると同時に、会員の皆様からの研究発表とパネルディスカッションなどの企画を募集いたします。研究発表だけでなく、会員の相互の研究関心と教育実践の質的な向上を共有する「企画セッション」も募集します。形式は、パネルディスカッション、統一テーマの論文発表、ワークショップなど、自由な発想のもと、90分間のセッションを使って、学会と国際社会に有効な企画をぜひお寄せください。

研究発表と企画セッションの応募にあたり、プログラムに掲載される要旨と大会プロシーディングス出版用の要旨の2種類をご提出ください。

①プログラム掲載用要旨： 和文800字以内
英文300語以内

②プロシーディングス掲載用要旨： 和文要旨3000字以内(脚注を含む)
英文1000語以内(脚注を含む)
いずれも、A4版2枚にすべてが収めること

なお、パネルなどの企画セッションに応募する場合、パネル全体としてそのセッションの概要を800字(プログラム用)と3000字(プロシーディングス用)の要旨に収めてください。発表者の要旨を別々に含める必要はなくなりました。詳しくは、学会ホームページの「プロシーディングス執筆規定」を参照してください。

応募の際は、メールの題目/subjectに「CAJ submission: 氏名」と必ず明記し、担当理事の森泉宛(moriizum@nanzan-u.ac.jp)まで電子メールでお送りください。応募の際、この手順に従っていただけない場合、自動的にスパムメールとして処理され、メールが行方不明となることもありますのでご注意ください。

応募締め切りは2015年2月20日(金)となりますので、期日には十分にご留意ください。大会の研究発表では、第一筆者(及び発表をおこなう当事者)がCAJの会員であることが規定によって定められています。申込みまでにCAJの会員登録をお済ませいただき、会員番号を明記ください。なお、会員番号は、本ニュースレターのあて名部分に印字されています。また年会費の未納のため、近年、会員資格の失効が発生していますので、あわせてご注意ください。

発表申し込みに関しましては、学会ホームページ(<http://www.caj1971.com/>)でもご覧いただけます。活気に溢れた大会になるよう、積極的に発表申し込みをいただきたく存じます。

Call for Papers for the 45th CAJ Annual Convention

The Communication Association of Japan will hold its 45th Annual Convention on Saturday, June 13th and Sunday, June 14th 2015, at Nanzan University in Nagoya. The theme of the Convention will be "Communication and Journalism." CAJ will invite proposals for individual or panel presentations for competitive research papers dealing with any subjects of communication studies. Additionally, we would like to particularly invite a unique and quality session that contributes to the CAJ members and activates our membership activities. The format of this theme session may vary depending on the session's objectives, such as a thematically organized paper session, a panel symposium, or a workshop. We appreciate your proposal that facilitates research activities and teaching practices as well as encourages information sharing beneficial for the CAJ members.

Those wishing to propose a paper presentation, a panel discussion, and a theme session should send an e-mail with an MS Word file of the abstract as an attachment to Satoshi Moriizumi, Deputy Director of Academic Affairs, at moriizum(insert @ here)nanzan-u.ac.jp by Friday, February 20th, 2015.

We will publish the conference proceedings with abstracts. Hence two forms of abstracts should be submitted.

(1) For the convention program:

300 words or less in English or 800 characters or less in Japanese.

(2) For the proceedings:

Maximum of 1000 words in English (including foot/endnotes) or 3000 characters in Japanese (including foot/endnotes). The total volume of abstracts must be limited to 2 pages printed on A4-size paper.

Refer to the Submission Guidelines for CAJ proceedings, and precisely follow the guidelines. Those who propose a panel or a theme session should submit a session overview of 2 pages maximum; abstracts of individual presenters are unnecessary.

Also, at your submission, please specifically type "CAJ submission: [name]" on the subject of your mail. Failure to specify the subject as such may result in identifying your e-mail as a spam so that the mail will automatically be disposed.

The first author of the paper as well as a presenter in the Convention is strictly limited to the CAJ members. If these responsible persons do not have the CAJ membership, please join the CAJ before submission and indicate your membership number on your paper : the number appears on the mailing label on the envelope of this letter. We also recommend that you clarify your current membership status because it is often lost by not paying the annual fee.

Those of you interested in submitting a proposal, please refer to the CAJ homepage (<http://www.caj1971.com/>) for the submission requirements: "Submission Guidelines for CAJ Proceedings."

We look forward to seeing you in Nagoya!

学会賞応募に関するお知らせ

当学会では、学会賞審査対象の著書を常時募集しております。今年度は、2014年1月1日から12月31日に出版された本学会員によるオリジナルの著作が対象となります。共著・分担執筆による著作については、すべての執筆者が本学会員である必要はありませんが、著作への本学会員の貢献が顕著と認められるものについて審査の対象とします。応募資格に関して不明な点がある場合は、事前に下記問い合わせ先にお問い合わせください。

締め切りは、2015年3月9日（必着）となります。応募される会員は、下記募集要領に従い応募してください。なお審査結果の報告は、年次大会の授賞式での発表に代えさせていただきます。

応募資格：正会員（自薦、他薦は問いません）。

応募方法：希望者は審査用著書3冊とともに、応募する部門（「研究書の部」もしくは「教科書・啓蒙書の部」のいずれか）を特定した上で、1000字程度の著作概略および著者の名前・連絡先を明記したものを添えて応募してください（尚、著書は返却いたしませんのでご了承ください）。

応募数量：一人一冊

問い合わせ先および審査書類一式提出先：学術局長 吉武正樹

住所：811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1-1 福岡教育大学英語教育講座

電話/FAX：(0940) 35-1312 / 35-1731

E-mail：larsunn(@を代入)yahoo.co.jp

学会誌に関するお知らせ

2014年11月末に『日本コミュニケーション研究』(*Japanese Journal of Communication Studies*)の第43巻1号が刊行されました。現在は5月末発行予定の第43巻2号の準備を進めています。内容は2本の研究論文と2014年度年次大会での基調講演者のダグラス・ラミス氏の論考を中心に掲載する予定です。6月上旬には皆様のもとにお届けできるよう編集作業を現在進めています。

また再査読システムの導入により、査読者のコメントをもとに投稿者がレベルアップをして学会誌に再投稿することが可能となりました。今後は、この再査読システムがより機能するよう工夫を重ねていきます。

現在は、11月発行予定の第44巻1号の締め切りが1月末に終了し、第44巻2号（2016年5月末発行予定）への投稿論文募集を開始しています。締め切りは7月末日です。投稿方法は、ワード等で作成されたファイルを指定メールアドレスに添付して送付してください。送付の際には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、以上3つのファイルを添付してください。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。

送付の際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

To：journal(@を代入)caj1971.com

CC：vanas(@を代入)yel.m-net.jne.p

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の坂井 (vanas@yel.m-net.ne.jp) までご連絡下さい。迅速に対応いたします。

前回のNLでも述べましたが、学会誌は年次大会とともに学会の大きな柱です。学会の顔である学会誌がどれだけ充実していくかは、ひとえに皆様方の投稿次第といえます。今後の本学会の行末を占う意味でも、ふるってご投稿いただき「日本コミュニケーション研究」の一端を担っていただけたら幸いです。また学会誌の発行も年2回1冊ずつとなり、投稿締め切り日も1月末と7月末の半年ごとのシステムとなっています。ぜひこの年2回の機会を積極的に活用し、皆様の研究成果を分かち合っていたいただけたらと思います。ご投稿お待ちしております。

事務局報告

事務局からのご報告とお願い

1. 会費納入のお願い

3月初旬に会費未納の方に振込用紙をお送りする予定です。今年度の会費の再請求は今回で最後となります。お早めにお支払いただきますようお願い申し上げます。会費2年分滞納でジャーナルの最新号を受け取ることができず、また3年分滞納で、除名処分の対象となりますのでご注意ください。

2. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変わられた場合には、速やかに学会支援機構までご連絡いただくか、学会ホームページのWebシステム上で変更をお願い致します。変更の際には、会員番号とパスワードが必要になります。会員番号は学会支援機構からの郵便物の宛名の下に記載されている10桁の番号です。パスワードを忘れた場合、生年月日が登録されていればご自身での確認が可能です。パスワードをお忘れになり、かつ、生年月日を登録されていない場合は、生年月日の登録を直接学会支援機構までご依頼ください。なお、従来通りのメールや葉書等でのご連絡も受け付けますが、学会事務局ではなく、学会支援機構までお願い致します。

3. 学会発刊物の購入申込みと閲覧、複写申込みについて

ジャーナルバックナンバー、記念論文集などの学会発刊物をお求めになりたい場合は、学会支援機構にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。なお、ジャーナル、記念論文集については、国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。

4. 新規会員の手続き

CAJでは、新しい学会会員を随時受け付けています。入会しやすいシステムに移行するため、以下のような流れで、新規会員の手続きを行います。とくに、会費納入について迅速に確認するため、新規の申込者には、会費の振込した日を会計担当理事にメールにてお知らせいただくようお願いすることにいたしました。その上でCAJ事務局から申込者と所属支部長に、会員登録の完了を連絡するようにいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願い申し上げます。



2014年度年次大会収支報告

〈収入の部〉

大会参加費	369,500
懇親会参加費	265,000
平和ツアー費	31,000
弁当代	49,000
寄贈図書売上	5,500
広告費	100,000
展示費	20,000
助成金	484,526
学会補助	279,088

合計 1,603,614

〈支出の部〉

プログラム作成費	270,636
プロシーディングス費	83,268
ポスター製作費	82,286
講師謝礼	109,480
懇親会費	280,000
平和ツアー費	31,000
弁当代	49,000
人件費	366,514
設営費および事務費	61,900
事務手数料、バス代など	269,530

合計 1,603,614

広報局便り

第45回年次大会の広報局活動の予定

第45回大会に向けて、広報局では以下の活動を行います。

- ① プログラム掲載広告の募集：2015年1月中旬に、例年通り、以前ご協力いただいた各社および新たな企業に協力依頼の案内を出します。
- ② 書籍・教育機材の展示の募集：これについても例年通り、協力依頼の案内を開始する予定です。プログラム広告同様、以前ご協力いただいた各社および新たな企業に案内を出します。
- ③ CAJの研究活動内容に関連する活動を行っている研究学会に、本大会の情報をお伝えします。会員の皆さまで、所属あるいは活動されている研究学会がありましたら、ぜひ広報局にご一報ください。広報局より、それらの研究学会にCAJ年次大会の案内をいたします。

各支部の年次大会等の予定

昨年(秋冬)の各支部大会及び研究会の報告、および春期の支部大会/研究会の予定等が本号の「支部ニュース」に掲載されておりますのでご覧ください。次号では、春期の支部活動の報告を掲載する予定です。

広報局からのお知らせ

- ① ニュースレター (Web版) の掲載について
107号(6月号)よりニュースレターが完全デジタル化され、紙媒体での郵送はなくなりました。今後、ニュースレターはCAJのホームページへの掲載のみとなります。
- ② ジャーナル投稿専用アドレスの設定と運用について
学術局と連携し、ジャーナル専用のメールアドレス (journal(@を付ける)caj1971.com) を設定し、次号投稿の受付を開始しました。広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップしていくことしております。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。
- ③ 皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報ください。ホームページにアップしたいと思います。
- ④ ホームページ (<http://www.caj1971.com>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸いです。
- ⑤ 広報局では、CAJニュースレターへのご寄稿を募集しております。次頁の要領をご覧ください、奮ってご寄稿ください。

CAJ ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。

① 著書紹介

会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文で 250～500 字程度の原稿を受け付けております。

② コラム：コミュニケーション教育

コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

③ 書評

コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評を受け付けております。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

④ NL 表紙の写真

ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。(写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。)

いずれの場合も、ご寄稿頂けます場合には広報局ニュースレター担当の小山 (tkoyama(@を付ける)notredame.ac.jp) までメールでご連絡ください。ただし、応募の状況、ニュースレターの紙面の都合により、掲載に関してご相談させて頂く場合もございますのでご了承ください。皆様のご寄稿をお待ちしております。

支部ニュース

北海道支部

(支部長 長谷川 聡)

2014年11月22日(土)に、藤女子大学北16条キャンパスにて第23回(2014年度)北海道支部研究大会が開催されました。今回の大会テーマは「家庭・学校とコミュニケーション:子どもと大人の間を考える」で、支部総会に続き3件の研究発表と基調講演が行われ、会員・非会員を合わせて19名の参加がありました。研究発表の1件目は札幌国際大学の堀内満智子先生による「観光英語検定試験対策科目の授業展開についての一考察」、2件目は札幌国際大学の竹内康二先生による「学校教育における外国語指導の限界:潜在的知識をどう獲得するか」、3件目は北海道科学大学の碓山恵子氏による「学習する組織への変革をうながす創造的会話手法の研究」で、英語教育や組織内コミュニケーションのあり方に関する理論的・実践的な考察が行われました。基調講演では、「特定非営利活動法人いきたす」代表理事の江口彰氏が「『カタリバ』が織りなすコミュニケーションデザイン」というテーマに基づいてお話しくださり、北海道内の各高校で進められているカタリバ北海道の具体的な取り組みについて映像資料を交えた紹介が行われました。充実した



教育システムの下、高校生との対話に向けた準備を通じて、語り手である大学生が大きく成長していく様子が印象的でした。



2015年3月7日(土)に予定されている北海道支部研究会は、新たな試みとして北海道内3学会(日本コミュニケーション学会北海道支部、大学英語教育学会北海道支部、北海道英語教育学会)による合同研究会が予定されています。研究会のテーマは「Communication for Specific Purposes (CSP): Caring Communication in Helping Profession and Teacher Talk in Classroom Interaction (特定目的のコミュニケーション(CSP):福祉介護のケア・コミュニケーションと教室内インタラクションの教師発話)」です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

2014年度北海道支部研究会(北海道内3学会合同開催)
日時:2015年3月7日(土)13:00より
場所:藤女子大学北16条キャンパス

東北支部

(支部長 川内 規会)

活動報告

1. ニューズレター第23号の発行
2. 支部HP

<http://www.caj1971.com/~tohoku/index.html> の更新

3. 第15回東北支部研究大会の開催

(2014年11月8日、仙台市、出席者14名)

今大会は「コミュニケーションと現代社会」をテーマに開催されました。新入会メンバー2名の参加や久

しぶりのメンバーの参加、学生さんや関東支部会員の参加等もあり、新しい風が入った活気あふれる大会となりました。

【研究発表5件】

- ・「話したいけど話せない？オンライン英会話システムを活用した自律英語学習支援の実践と課題」石橋嘉一（青森中央学院大学）
- ・「学生の SNS 利用の実態—アンケート調査の分析報告—」小島正美、宮曾根美香（東北工業大学）
- ・「日本の医療通訳養成の変遷と今後の展望」川内規会（青森県立保健大学）
- ・「日本のチャイルドシート着用を促進するメディア活用について—コミュニケーションとしてのメッセージの再評価—」小笠原メリッサ（青森県立保健大学）
- ・「異分野間コミュニケーション—コミュニケーション学と介護福祉教育学の出会い—」五十嵐紀子（新潟医療福祉大学）、関久美子（新潟青陵大学短期大学部）

【講話】

- ・「国内の異文化から学べること～CAJ 会長として支部大会を巡って得たもの～」宮原哲（前会長）会長当時の経験談や最近のコミュニケーション傾向などの貴重なお話を伺いました。

【ラウンドテーブル】

コミュニケーション教育研究会・学術局（吉武正樹学術局長）出席者が一体となり活発な意見交換が行われました。また、吉武学術局長からコミュニケーション教育の現状と関わりをモデルで説明していただき、教育への知見をいただきました。



今後の活動予定

1. ニュースレター第24号の発行
2. 2014年度東北支部定例研究会の開催
 - ・2015年2月28日(土)13:00～（仙台ガーデンパレス）
 - ・研究発表およびコミュニケーション科目の授業実践

報告(意見交換会)の実施

3. 支部HPの随時更新



(支部長 藤巻 光浩)

2014年12月20日(土)に、愛知淑徳大学星が丘キャンパスに於いて支部大会を開催した。今年度は、CAJ レトリック研究会との共同開催であった。基調講演は、池上重弘先生（静岡文化芸術大学）をお迎えし、「在日ブラジル人の四半世紀—地域課題として、地域資源として—」というタイトルで講演をしていただいた。池上先生は、浜松市における外国籍の子供たちの抱える問題の調査研究の成果を地域に還元することの大切さを説き、その実践例を紹介して下さった。浜松市にある公立大学の教員として、地域の問題に目を向け、学生のみならず地域のエンパワーメントにつながるような教育・研究の在り方を紹介して下さった。実際の地域貢献に役立てる研究者としての責務を、多くの会員に向かって示したとも言える。コミュニケーション学を生業とする私たちにとり、これは重要な課題であり、質疑応答や懇親会においても会員の間で確認され、非常に意義の深い基調講演であった。

また、会員による単著の出版が近年あったために、合評会パネルもおこなった。一つ目は、柿田秀樹氏による『倫理のパフォーマンス イソクラテスの哲学と民主主義批判』（彩流社）に関するパネルであった。応答者には、師岡淳也氏と三熊祥文氏をお迎えしそれぞれ討論いただき、それに対して著者である柿田氏が応答していく形式をとった。このやり方だと、著者自らが応答くださるため、読みの精緻さを達成することができる。イソクラテスという人物が実践したスピーチライティングを、現在において、コミュニケーション研究者である読者がどのように受け止め実践することができるのか、といった学術領域の分節化の倫理についての意見交換を、著者と共にできた。これは、レトリック研究会のみならず、多くのコミュニケーション研究者と共有すべき議題であった。



二つ目の合評会は、日高勝之著『昭和ノスタルジアとは何か 記憶とラディカル・デモクラシーのメディア学』（世界思想社）についてであった。日高氏は、在外研究でロンドン在住であるために、スカイプでパネルを持った。これは、支部としては初めての試みであったが、著者を交えて議論する醍醐味をあげることができた。このパネルも、二人の討論者（福本明子氏と藤巻）に、著者が応答するという形式をとり、深い読みを会員と共有できたことが一番の収穫であった。テーマ設定に対する人気もさることながら、ラクラウ&ムフによる敵対性概念を、ナラティブ分析の方法論として設定し、「昭和ノスタルジア」を構成する大衆文化を担ったさまざまな作品を批評した本書は、今後も多くの読者を獲得することは間違いないだろう。その上、本書が極めて重要な近過去研究の金字塔となることも本パネルでは確認した。また数々の新聞や雑誌などで書評として取り上げられた本書への関心は高く、非会員も含めて多くの方がこのパネルにいらした。



今回の支部大会に通底する論点は、様々な領域を横断したものであり、今後の支部会員の教育・研究に少なからず影響を与えていくであろう。また、多くの支部会員が参加する科研課題（「シティズンシップ論へのコミュニケーション学的アプローチの模索」、研究課題

番号：25370724）との関係もあり、支部大会を研究のプラットフォームとして活用していく可能性も試めすことができた。個人の研究の成果報告にとどまらない、会員によるコレクティブな支部大会の利用方法も追及してもいいのではないかと感じた。

関西支部

（支部長 守崎 誠一）

関西支部秋季研究会を11月15日（日）に、大阪駅前の第一生命ビルビヤレストラン・ニュートーキョーで開催し、12名の参加がありました。今回の研究会はテーマを「酒席の場のコミュニケーション」とし、最初から飲食を共にしながら議論を進めるシンポジオンの形を試みました。

会の冒頭、ソクラテスを中心としたギリシアの哲学者たち数人が酒を飲みながら愛について語り合ったというシンポジオンの由来についての説明を、企画者の森口先生からおこなっていただきました。その後、流通科学大学の中川典子先生から「酒席の場とコミュニケーション：日本における非公式コミュニケーションのあり方について考える」というタイトルで話題提供をしていただきました。中川先生のお話は2部構成で、第1部は以前に中川先生がおこなわれた研究に基づく「日本人ビジネスパーソンと韓国人ビジネスパーソンの自己開示に関する比較文化調査」についてお話していただきました。



第1部が終了した時点で、最初のコメントーターとして、森口先生が、企業の職場における酒席の経験について話し、一しきり議論が盛り上がった後、少し休憩を挟んで第2部に入りました。第2部は「職場仲間

との非公式コミュニケーションとしての『酒席の場』再考』のお話をいただきました。

第2部終了後、2人目のコメンテーターである守崎の発言を皮切りに、自由な議論が始まりました。メーカー勤務や公務員の非会員からも意見が出て大いに盛り上がり、予定を30分ほど超過する19時30分頃に閉会となりました。



中国・四国支部

(支部長 Rudolf Reinelt)

12月6日(土)に松山市の愛媛大学にて、第17回CAJ中国四国支部大会を開催しました。今大会では、特別講演として高知大学の丸井一郎先生をお招きし、都市コミュニケーション及びその研究について紹介いただきました。研究発表は、脇先生が若者コミュニケーションの特徴について、ラインルトが非初心者第二外国語教授におけるコミュニケーションの課題について発表しました。懇親会では近年の大学改革におけるコミュニケーションの課題などを語り合いました。全体を通じて活発な議論が展開され、少人数ではあったものの、非常に意味深い大会であったと言えます。また、当日行なわれた講演と発表の内容は、開催後CAJcsNL38号にまとめて発行し、支部会員に送付しました。

次回は12月ごろに第18回中国四国支部大会を広島県福山市で開催する予定です。

九州支部

(支部長 伊佐 雅子)

- 九州支部20周年記念誌を2014年9月上旬に発刊しました。執筆してくださったCAJ歴代の会長の皆様、東北支部初代支部長、歴代支部長、支部会員のみなさまにお礼と感謝を申し上げます。なお、在庫がありますので、希望される方は連絡ください。



- 九州支部は第21回大会を、2014年10月4日(土)、大分駅前の研修施設「ホルトホール大分」で開催しました。大会テーマは「介護・福祉とコミュニケーション」で、午前中に研究発表を行い、午後からは講演とシンポジウムを行いました。講演者は看護管理学がご専門の鶴田恵子先生(日本赤十字看護大学教授)(大分出身で、大会実行委員長の清水孝子先生の姉)をお迎えし、「地域包括ケア時代のコミュニケーション」という演題でお話をいただきました。



鶴田恵子 教授

その後、この基調講演を受け、立場の異なる3人の先生方（医師：佐藤俊介氏、看護師：生野秀子氏、家族：本学会員：宮下和子氏）によるシンポジウムを行いました。

公開基調講演では、鶴田先生は、1) 看護におけるコミュニケーション、2) 医療におけるコミュニケーション 3) 地域包括ケアシステム、4) 在宅で家族を看取った体験：地域包括ケアシステムの利用、5) 地域包括時代のコミュニケーション（＝理解しあうコミュニケーションの必要性）について話されました。団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムについて、深く学ぶことができました。また、先生の家族との実体験をもとに、地域包括ケアシステムを利用しながら母親の最後の「看取り」をされたかのお話は、心に響く内容でした。



パネルディスカッション

この講演とシンポジウムの内容は九州支部の「ニュースレター」(Newsletter) (第25号) (2015年1月に発行予定) に掲載予定です。

研究発表件数8件のうち、大学院生と大学院修了者が4件で教員4件、参加者は昨年より多く36名（一般参加も含む）でした。

また、支部大会後、懇親会を「壺中の天地」で開き、講師の鶴田先生を交えて、当地大分の食材をメインにした懐石・会席料理をごちそうになり、会員同士の親睦を深めました。



基調講演に傾聴する会場

大会内容

公開基調講演

「地域包括ケア時代のコミュニケーション」

講演者：鶴田恵子（日本赤十字看護大学教授）

公開シンポジウム

「介護・福祉とコミュニケーション」

司会：畠山 均（長崎純心大学教授）

パネリスト：

佐藤俊介

（吉川（きつかわ）医院院長）

生野秀子

（大分赤十字病院医療連携・患者支援副センター長兼訪問看護ステーション課長）

宮下和子

（CAJ 学会員：鹿屋体育大学名誉教授）

コメンテーター：

鶴田恵子（日本赤十字看護大学教授）

支部総会

研究発表

「Apprehending the semiotics of Japanese typography in advertising」

PUEL Flavien (Seinan Gakuin University)

「自動車のマーケティング戦略と車の広告表現の文化差—日本とアメリカの比較—」

百瀬有幸（沖縄キリスト教学院大学大学院）

「アルメイダの病院運営と布教活動を通して考える異文化コミュニケーション」

清水孝子（日本文理大学）

「自己から学ぶということ—介護現場実習における主体と客体の捉え直し—」

五十嵐紀子（新潟医療福祉大学）

「言語とアイデンティティー—沖縄在住のアメリカ人」

籍と日本国籍の親をもつ人々の事例をもとにー」

石川直美 (琉球大学大学院)

「公害を語り継ぐためにはー四日市再生「公害市民塾」連続10回土曜講座から考えるー」

池田理知子 (国際基督教大学)

「英米文学関連科目の講義を受講した大学生の卒業後の変容ーインタビュー調査を通じた卒業生の「語り」を通してー」

鎌田史 (沖縄キリスト教学院大学大学院研究生)

「映画『大統領の執事の涙』(The Butler)に見る父と息子のコミュニケーション」

宮下和子 (鹿屋体育大学名誉教授)

懇親会 壺中の天地 (大分駅より徒歩約10分)

3. 支部紀要の発行 (第12号)

支部紀要『九州コミュニケーション研究』(KYUSHU COMMUNICATION STUDIES) (電子ジャーナル) (第12号) を2014年9月末に発行した (支部のホームページに掲載)。

次号 (第13号) の締め切りは2015年3月末である。

(研究論文)

- ・アメリカ系うちなーんちゅのアイデンティティと言語

石川直美

- ・大学生の内発的動機づけを中心としたグローバル化教育授業の開発

筒井久美子・船山和泉

- ・The Sound of Science in Chemistry Lecture: A Case of Japanese Graduate Students in Science and Engineering

Tamura, Mika

(研究ノート)

カナダ・ヨーク大学における権利の衝突と多文化共生ー「自由」と「平等」の考察ー

坂田史

4. 会員のためのニュースレター (Newsletter) (第25号) の発行

支部会員のためのニュースレター (Newsletter) (第25号) は昨年12月に発行予定であった

が、少し遅れ、2015年1月に発行の予定である。

内容は、支部大会の講演要旨とシンポジウムの内容と特別寄稿(2名)、書評&会員著書の紹介と、会員紹介である。現在原稿を依頼している。

学会支援機構の連絡先

〒112-0012

東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン 4F

一般財団法人 学会支援機構

日本コミュニケーション学会担当

TEL: 03-5981-6011

Fax: 03-5981-6012

E-mail: office(@を代入)asas.or.jp

NLの電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニュースレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、107号より電子版に完全移行いたしました。当面はPDF版をHPに掲載する予定ですが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築してのメールマガジンの配信も視野に入れ、さらに検討を続けていきます。つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にてメールアドレスの登録をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください。）今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

- ① 本学会 HP (<http://www.caj1971.com>) にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き（Membership）」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下「1 オンラインでWeb 登録情報確認・変更、会費残高照会のページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。

* ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、**学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。**

- 会員番号は、学会からの郵送物の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

編集後記

完全電子化から2号目となる、CAJ NL 108号をお届けいたします。今号は写真なしの表紙を採用しております。広報局では表紙用の写真を募集しておりますので、奮って応募ください。

さて、広報局では、NLの完全電子化に伴って編集から発行までの全ての作業を広報局で行う体制に移行したのを受け、2014年6月より、あらたに広報局員として野島晃子さん（立命館大学大学院 先端総合学術研究科 一貫制博士課程）に加わっていただいております。特に編集作業を中心に（強力に）ご協力いただき、おかげで107号、108号と無事に発行にたどりつくことができました。ご紹介が遅くなりましたが、前号の役員一覧でご紹介されました今井達也先生（南山大学）、そして野島さんを加えて新体制となりました広報局では、NLその他を通じて会員の皆様のコミュニケーションが活性化するお手伝いをできるよう努めて参ります。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

広報局 ニュースレター担当 小山哲春